

その32 坂

(平成12年2月1日号—第205号)

江戸時代から続いた「坂村」は、明治22年4月、「牧野村」が成立したときに「牧野村大字坂」となりました。「大字坂」は、現在の牧野阪1～3丁目、西牧野1～4丁目、黄金野1丁目、牧野本町1～2丁目、東牧野町にかけた一帯に当たります。

地名には、その場所の地形をそのままとって名づけられたところも多いと言いますが、「坂」も、穂谷川右岸沿いの斜面に位置していたことから、この名がつけられたと言われています。また、現在、牧野阪などの地名に使われている「阪」の字は、かつては土偏の「坂」でしたが、昭和41年の住居表示で「阪」の字に変更されました。

さて、この地には、垂仁天皇の時代、野見宿禰[のみ
のすくね]が創建したと伝えられる、片埜[かたの]神社
があります。現在の社殿は慶長7(1602)年に豊臣秀頼
が再興したもので、本殿は国の重要文化財に、東門・
南門と石造灯籠は府の有形文化財に指定されています。

また、この神社の北側には、牧野公園(京阪電車牧
野駅下車、東へ徒歩約7分)があります。ここの桜は、



56 片埜神社
石造灯籠



55 片埜神社本殿
(牧野阪2丁目)

「牧野の桜」として枚方八景の一
つに数えられており、毎年、数十年
の年輪を刻んだ桜が咲き競い、花見の季節には大変な人出でにぎ
わいます。

このあたりは、平安時代には交野ヶ原と呼ばれ、桜やツツジ、
八ギ、カエデなどが季節ごとに咲き乱れ、都の貴族だけでなく、
付近の住人にとっても行楽の場になっていたようです。

今も昔も変わらずに行楽の地となっているこの場所に、桜の咲
くころ、あなたも訪れてみてはどうでしょうか。